

平成27年度 事務事業マネジメントシート

| | | | | | | | | |
|-----|------------|-----------------------------------|------|-------|----|----|----|----|
| 事業名 | 在宅医療連携拠点事業 | | | 会計 | 款 | 項目 | 大 | 小 |
| | | | | 08 | 03 | 02 | 02 | 01 |
| 政策 | O4 | 4節 誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実） | 主管課 | 介護支援課 | | | | |
| 施策 | 4-2 | 高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり | 主管課長 | 菊池 義博 | | | | |

I 事務事業の目的・内容

| | | | | |
|-----------------|---|----------------------|----|---|
| 事業目的 | 対象 | 市民及び在宅医療と介護にかかわる関係職種 | 意図 | 医療や介護が必要となっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核をなす医療と介護の連携構築と体制整備を図る。 |
| 事業内容 | 医療と介護に携わる職種が集い連携推進を図るための「介護と医療をつむぐ会」の開催や、関係職種の代表者による「在宅医療介護連携会議」で医療と介護に関する課題解決を図る。関係職種間の情報連携を推進するためインターネットを利用した情報連携システムの活用を推進する。また、地域包括ケアシステムの啓発のため市民対象講演会を開催する。 | | | |
| 事業開始から現在までの状況変化 | 医療と介護の連携構築を図る事業については、平成27年4月から介護保険法の地域支援事業に位置付けられたが、医療と介護の需要の急増が見込まれる2025年に向けていち早く連携推進、体制整備に取り組むため、平成26年度千葉県在宅医療連携拠点事業（モデル事業）の指定を受け、10月より事業を開始し、27年度も同様に県のモデル事業として実施した。 | | | |

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

| 指標 | 名称 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 単位 | 目標方向 | 算定式（成果指標の場合） | |
|--------------------------|---|--------|----------------|------------|---|------|--------------|---|
| | | ① | 介護と医療をつむぐ会参加人数 | | 474 | 461 | | 人 |
| ② | 情報連携システム利用者数 | | 10 | 73 | 人 | ↑↑↑ | 関係職種へのID発行数 | |
| ③ | 市民対象講演会参加人数 | | 180 | 600 | 人 | ↑↑↑ | | |
| ④ | | | | | | | | |
| 指標で表すことができない定性的な成果 | 医療と介護に携わるすべての職種を対象に関係職種が集い議論する会議の開催により顔の見える関係づくりを行っている。 | | | | 目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 医療と介護の関係職種が集う「介護と医療をつむぐ会」を5回開催し、関係職種が顔を合わせ事例検討、市内の医療と介護の連携、上の課題についての意見交換を行った。医療と介護の関係職種の代表者で構成する「在宅医療介護連携会議」を5回開催し、つむぐ会で抽出された課題を検討した。スムーズな連携に向けて医療機関へのアンケートを実施し、得た情報について医療・介護関係機関と共有した。市民対象に医師会と共催で「よく生き、よく笑い、よき死と出会う」をテーマにアルフォンス・デーケン氏による講演を実施し、市民等600名が参加した。 | | | |
| 事務事業のコスト | | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | | | | |
| 事務事業の総コスト(a=b+c) | | | 10,226,443 | 13,836,496 | | | | |
| 事業費(b)(円) | | | 2,727,743 | 4,960,896 | | | | |
| うち一般財源 | | | | | | | | |
| 職員給与費(c)(円) | | | 7,498,700 | 8,875,600 | | | | |
| 人役・職員(人) | | | 1.00 | 1.00 | | | | |
| 人役・再任用(人) | | | | | | | | |
| 人役・臨職(人) | | | 0.35 | 0.80 | | | | |
| 人役・嘱託(人) | | | | | | | | |
| 初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入） | | | | | | | | |
| 想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入） | | | | | | | | |

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

| | | | | | | |
|------|-----|----------------------|-----------------------|-----|---------|-------------|
| 個別評価 | 必要性 | 今後の必要性 | A 必要性が高まると考えられる | 有効性 | 目標達成度 | B 達成できなかった |
| | | 市関与の必要性 | B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき | 効率性 | 対象者の適切性 | A 対象者は適切である |
| 総合評価 | | II 継続（事業を現状どおり継続すべき） | | | | |
| | | コストの削減 | | | | |
| | | A 削減の余地はない | | | | |

(2) 事務事業の業務改善について

| | | | |
|------------------|--|----------|---|
| ①今年度(H27)の改善計画 | 医療と介護の連携上の課題解決のための会議体等の仕組みの構築はできたが、課題の抽出や検証、具体的解決は至っていない。 | ③取組の課題 | 26年、27年度の会議により、ある程度の課題の抽出はできたが、この課題の解決に向けて優先度を精査し具体的な計画を立て取り組んでいく必要がある。 |
| ②今年度(H27)に実施した取組 | 継続した会議の実施及び、スムーズな連携をめざし、医療機関にアンケートを実施し連絡の取りやすい時間等を調査し、介護職・事業者間で共有した。 | ④今後の改善計画 | 体制づくりのため、より具体的な計画を立て実行していく。 |